

腹腔鏡内視鏡 合同手術研究会

Laparoscopic Endoscopic Cooperative Surgery
第10回 2014年10月25日

■演題2 センチネルリンパ節ナビゲーションを併用した非開放式腹腔鏡内視鏡合同手術 (closed-LECS) の経験

代表演者：森山秀樹 先生（石川県立中央病院 消化器外科）

共同演者：[石川県立中央病院 消化器外科] 稲木紀幸 松井亮太 俵広樹 齊藤直毅 奥出輝夫
山本大輔 北村祥貴 黒川勝 伴登宏行 山田哲司
[石川県立中央病院 消化器内科] 富永桂 土山寿志

【はじめに】 2010年より腹腔鏡内視鏡合同手術 (LECS) を導入し、粘膜下腫瘍を対象に 32 症例を経験した。今回、早期胃癌に対して当院で施行した非開放式 LECS (closed-LECS) の 1 例を報告する。

【症例】 77 歳, 男性。胃体下部大彎, 径 30mm, 0-II c, SM, tub.1 と診断され外科に紹介となった。胃部分切除を強く希望されたため, 十分な IC のもと, センチネル併用 closed-LECS を施行した。内視鏡下に ICG を局注し, 腹腔鏡下にセンチネルリンパ節を同定し迅速病理診断にて転移陰性を確認した。リンパ流域郭清を施行後, 内視鏡下に粘膜下層を全周切開し, 腹腔鏡下に同部位を内翻させ漿膜筋層縫合した後, 最終的に, 再び内視鏡下に全層切開し標本を摘出した。術後経過良好にて第 9 病日に退院となった。 p-T1b(SM)NOMO, Stage IA であった。

【結語】 粘膜面で切除範囲をより厳格に決定したい症例に対し, 内視鏡下に粘膜下層周囲切開を先行する closed-LECS の手技を適応し良好な結果が得られた。closed-LECS は悪性病変に対する有効な手段の 1 つであると思われた。